
バカとテストと召喚獣 another

マッキー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣 a n o t h e r

【Nコード】

N 1 7 5 9 W

【作者名】

マッキー

【あらすじ】

AクラスとFクラスのオリジナル主人公が文月学園で大暴れ！

って感じのストーリーです

初小説です

いろんなマンガのネタをバカテスキャラ&オリキャラでやったりする予定あり「主に銀魂」

作者は受験生の為更新は難しいと思われるので

ご了承ください

登場人物紹介（前書き）

Fクラスの主人公です

登場人物紹介

Fクラス主人公

かみのが

はやと

神乃河 隼人

清涼祭開始前に文月学園に転校する

普通はBクラス並の成績だが、試験の日にちを間違え無得点に、Fクラスに

暗記力が半端なくあり、フラッシュ暗算は日本でトップを狙える実力
バーコードの数字は少し見ただけで完璧に覚える
なぜ成績がBクラス並かというと

慎重すぎて一度解いた問題何度も見直す

数学とか確め算を何度もするなどという徹底ぶりのせいである
しかしその分解けた問題必ずと言っていいほど正解する

そのため彼の答案用紙にはバツが存在しない

おぼろげながらも答えが分かってても

「せっかく書いた解答が間違えるのは不愉快」

という理由で解答は書かない

得意科目は暗記系全般、不得意科目は数学である（確め算で時間がかかるため）

暗記力がすごいいため秀吉の演劇を手伝うことがある（台本をすぐ覚えるから）

木下姉弟とは小学校、中学校の頃から一緒に二人を完璧に見分けられる

ムツリーニとは中学から一緒

中学3年の5月に転校

Aクラス的主人公、松永仁志とは親友である

普段は気がよく話しかけやすい人、他人とも気軽に話せる

しかし友人が危機に陥ると、性格が変わり、鉄人以上の戦闘力を発揮し、相手を倒すその姿は【霸王】と呼ばれるほど、【霸王】のときは恐ろしいほど怖くなり、睨んだだけでたいていの人は腰を抜かすしかしよつぼどの危機にならない限り【霸王】にはならない

髪は焦げ茶色で雄二より身長は少し低いくらい

制服を着崩しており、冬服はネクタイを取りブレザー全開

夏服はネクタイ取って、シャツを出している

あと恋愛沙汰に興味なし

何故かFFF団団長の称号を持っており最高権力者である

そのときの姿はFFF団の服とは違い黒コートでフードを目深に被り鎌を持っている

自ら異端者粛清には行かず、指揮官のような役割

ある程度常識ができている為

明久が秀吉とイチャついても明久を庇っている（隼人は秀吉が男と認識してるため）

しかし女と関係を持ったとなると粛清に掛かるが、弁当を食べていたり、手を繋いでも粛清はしないため、FFF団の中ではマシな方である。

召喚獣の装備は黒の長ズボン、黒のTシャツに銀のラインが入った黒コート

武器は白みがかかった蒼色の太刀（ただしデザインは洋風の剣）

腕輪の能力は武器の破壊力を上げ、大地を割るような一撃を放つ【ふんさいじん粉碎刃】

召喚獣の装備変更後は腕輪も変わる

登場人物紹介（後書き）

疲れた…仁志の紹介は後ほど書きます
質問も気軽にどうぞ

登場人物紹介 2（前書き）

Aクラス主人公…の前に、隼人についてももう少し

登場人物紹介 2

Fクラス

かみのが

はやと

神乃河 隼人

身長 175センチ

体重 66キロ

好きなもの 友達、家族「母親を除く」

嫌いなもの 裏切る人 母親

好きな食べ物も嫌いな食べ物も特になし、なんでも食べる

利き手 両利き

特徴 カンがいい、暗記力がすごい

家事はだいたいできる

家族構成 隼人 次男 父親 母親

現在 隼人 父親

中学三年五月の初めにある事件を理由に引越し、仁志達と離れた

Aクラス主人公

まつなが
松永 仁志

身長 175センチ

体重 67キロ

好きなもの 料理

嫌いなもの 疑り深い人

好きな食べ物 全ての料理が好き
嫌いな食べ物はない

家族構成

父親 母親 仁志

利き手 右

特徴 後始末や証拠隠滅が得意 フォローが上手い

髪の色は黒、眼の色は右が赤、左が黒のオッドアイで

仁志はこの目のせいでバケモノ呼ばわりされたが、木下姉弟は綺麗、
隼人はかつこいいと行ったため、

立ち直った、中学でムツツリー二にも、普通だと言われた

中学時代隼人がいろいろしでかしたのを証拠隠滅したり、後始末を
していた

文月学園入学後は雄二、明久、ムツツリー二、秀吉と行動していたが
2年でクラスが分かれた

家がレストランで、父親は店長そのため小さい頃から専門的に料理をしてたため腕は明久も超える実力料理となると無駄に博識

得意科目は理数系、苦手科目は文系

テストの結果が、その時の調子によって大きく違う

悪いときはBクラスの下位くらいだが、調子が絶好調だと霧島をも超える点を取る

振り分け試験時はギリギリAクラスだった

召喚獣の装備は赤色の鎧

武器は黒色のガントレット

腕輪の能力は【狂暴化^{バーサク}】、使用中は点数が減り続けるが、攻撃、防御、素早さが異常に上がる

登場人物紹介 2（後書き）

隼人「俺が母親が嫌いな理由？」

作者「読んでからのお楽しみだな」

仁志「つーかこれあるメッセージを参考にしてへんしゅ・・・」

隼人・作者「シーっ!!」

一年生編〜プロローグ〜（前書き）

清涼祭開始までは仁志が主人公です

一年生編／プロローグ

今日は．．．．特別な日．．．

何故ならそれは．．．

「姉上ー！そろそろ行かんと入学式に遅れるぞい」

「分かってるわよ、今行くわ」

今日は文月学園の入学式なのだから

家を出て前を見ると、そこにあるのは1年前、彼が暮らしてた家は元気かな？今何処で何しているのだろう？

それはわからないけど．．．信じていれば会えるはず．．．

．．．．．きっと．．．．．

*雄二視点

たくつ・・・めんどいな入学式なんか・・・

まさか翔子同じところなんて・・・おふくろも余計な事を・・・

そう考えていた時、一通のメールが届いた

「あ？誰だ・・・って正和から・・・？」

メールの送り主は小学、中学と一緒にだった親友

みずたに まさかず
水谷 正和からだった

f r o m 水谷正和 t o 坂本雄二

今日お前入学式だったよな？

俺も隼人達と一緒に新月高校に向かう所だ

お互い新たな学校で頑張ろうぜ

俺は「そうだな、そっちも頑張れよ」と返信し携帯を閉じた

*仁志視点

「おはよー」

朝の挨拶は肝心だな

「あら、仁志おはよう」

そう返事したのは俺の母さんだ

「父さんは？」

「お父さんは新しいメニューだかなんかでないわよ」

「そーかい、帰ったら俺も手伝ってみるよ」

俺の家は実はレストランで、父さんはそのオーナーだ
よく俺もガキの頃から手伝ったりするし、料理も好きだ

「そうね、お父さんも喜ぶと思うわ、それよりも行かなくていい
の？今日は入学式でしょう？」

俺がパンを食ってたらいきなりそんなことを言われた

「お、ホントだそろそろ行ってくる」

「いつてらっしゃい」

家を出てしばらく歩くとそこには、友人の平賀源二の姿があった

「よう源二」

「ああ、仁志・・・ん？お前右目隠さなくていいのか？」

源二にそう指摘された　その通り俺は赤色の右目があり、今までそ
れを黒のカラーコンタクトで隠していた

「まあ・・・自分を隠す必要なんざねーしな、それにお前等がいる
限り苛めとかの対象にもならんだろ」

「そうだな、秀吉や、俺やムツツリー二、優子でカバーすりゃ大丈
夫だろ」

「とっ・・・そろそろ学校だな」

源二がそういうと文月学園が見えてきた

「よしっ新たな学園生活の幕開けと行きますか！」

一年生編／プロローグ（後書き）

雄二にメール送った正和はオリキャラです

あと二人オリキャラが存在しますが

二人とも新月高校で、隼人と愛子も現在新月高校です

あと、源二もムツツリー二と同じく中学時代一緒だったという設定です

1年生編 第一問

「おう、俺はB組かい、お、ムツツリー二と秀吉がいるな、源二は？」

「俺はC組、木下と同じだ」

「・・・仁志、源二おはよう」

クラスを確認していると中学の時の友人ムツツリー二がいた

「おう、おはよう」

「おはよう、早いな、そう言えばムツツリー二お前B組だよ」

源二がそう言う

「・・・B組か・・・あと流石に入学式に遅刻なんてヘマはしない」

「そりゃ、ごもつともだな・・・ん？」

「どうした？仁志」

「・・・なにかあった？」

いや、それほどでもないが・・・

「さつき・・・」

下にズボン穿いて上にセーラー服着た人が長身赤髪の男を追いかけていたような・・・

「ただの変態じゃないか」

「ああ、赤髪の男が変態だと叫んでいた」

「・・・この学校はおかしな奴が多い」

「「お前もおかしいと思う」」

俺と源二突っ込みが・・・ハモった・・・

「変態だア ! !」

『何？この学園長は変態なのか？』

入学式時、謎のセーラー男が来襲（？）したことにより、赤髪の男が悲鳴をあげていた

しかも学園長の話の真つただ中に「変態」と叫んだために学園長が変態扱いになんつー波乱万丈な入学式だよ・・・まったく・・・

そして教室

担任が言ったので自己紹介タイムに

「三日月中学出身、木下秀吉じゃ、よろしく頼む」

秀吉か・・・小学からずっと一緒だったけど、変わらんね変わったら困るけど

「神無月中学出身・・・坂本雄二だ」

と言ったのは変態と言った赤髪の男だ
成程・・・あいつが悪鬼羅刹で噂の・・・

「島ダ みなミ、デす よろしくオネがいします」

って言ったんだけど黒板には島田美「彼」になつてた為あわてて訂正していた

担任によればドイツからの帰国子女らしい、

俺ってドイツ語は始めたばかりでうまくしゃべれねえんだよね・・・

「松永仁志だ、1年の間よろしくな」

『松永の右目って・・・』

『間違いない・・・あの赤の右目』

『三日月の紅き隻眼だ・・・』

『あのあらゆる証拠を闇に葬ったあいつか・・・』

っていうコソコソ話が耳に入る

俺は三日月中学でちょっとした問題児で

いろんなこととしては、裏で証拠隠滅してたもんだ・・・

そのせいで「三日月の紅き隻眼」なんて呼ばれたんだが・・・

今となればいい思い出だな。うん

「三日月中出身・・・土屋康太」

「趣味は、盗撮：何でもない、特技は盗聴・・・何でもない」

その、何でもないはデジカメをポケットに覗かせて言うもんじゃねえよ・・・ムツツリーニ

こいつは康太何て名前だがあまりにもムツツリすぎるからムツツリーなんてあだ名がつくんだよな

そしてラスト

「吉井明久です、一年間よろしくね」

きやがったッ・・・

セーラー服にズボンの変態がつ!!

1年生編 第二問

「にしても・・・まさかあの変態が俺のクラスとはな・・・」

自己紹介が終わり、その後C組に来ていた

「くっはは、まさかホントにいるとはな」

「笑い事じゃねえよ源二あの悪鬼羅刹と恐れられた坂本でさえものっそい嫌そうな顔してたぜ」

「え？坂本って坂本雄二？」

「ああ、元神童のな」

源二が驚いた顔をする、無理もない神童の噂はここまでとどいている

「坂本がこの学校にいるのか？」

そう言って話に入ったのは、中学時代源二と一緒に生徒会に入っていた

黒崎トオルと野口一心だった

ああ、そうだと俺が言つと

「なんか怖いねえ」お前のクラス、変態もいるんだろ？」

「言うな、一心・・・っとチャイム鳴るじゃんクラスに戻るわ」

「ああ、またな仁志」

「おう、源二」

「む、仁志どこへ行っておったのじゃ？」

教室に帰ると、木下秀吉がいた俺のクラスメイトで小学からの友人だ
「源二達とちよつとな・・・っかチャイム鳴るぞ席に着け」

「うむ、すまぬ」

そう言い自分も席に戻ると、前の席の生徒が窓の外を眺めていた
たしか帰国子女の島田・・・だったか・・・
そいつの目は・・・

（昔の俺にそっくりだな・・・）

そして帰り道、俺は秀吉、優子とともに帰路についた

「お主、眼を隠さなくて良いのか？」

「源二と同じこと言うな」

「でもアンタ、あの時は彼がいたから・・・」

「あいつはどこにいるかもわかんねえよ」

助けられてばかりじゃなんも始まんないさ

・・・それに」

「「それに？」」

優子と秀吉の声が重なる

「どこにしようがあいつは元気でやってる、あいつが元気なら

俺もそうじゃないといけねえ」

その言葉に二人は頷いた

「ただいまー」

『ニャー!』

「どわぁ!? カイ!？」

家に帰ると飼い猫のカイが飛びついてきた

「あら仁志おかえりなさい」

俺の母さん登場

「カイ、遊び相手は母さんに頼め」

『ニャ〜』

「仁志、私は夕飯の準備があるんだけど？」

「……………カイ、俺の部屋行くぞ」

『にゃー!』

そして部屋に行く

『ヒトシ! ヒトシ! オ! オカエリ!』

この声は俺のペットインコのピー助だ

「嫌いピー助焼き鳥にされたいのか」

『オレのヤキトリ! マズ! ゲキマズ!』

「んな言葉どこで覚えたよ…」

『ニャーニャー!』

「分かった、カイ遊んでやるから」

『ハラヘッタ! メシ! ヒトシ!』

「お前ホントによー喋るインコだなあ……………」

俺の部屋は今日もにぎやかです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1759w/>

バカとテストと召喚獣 another

2011年10月28日17時10分発行